令和５年５月２３日
大津市立瀬田南幼稚園
園　長　　平木　秀樹

早いもので５月も後半に入り、温かい日差しを浴びながら子ども達は園庭で伸び伸びと遊んでいます。外で遊びにくくなる梅雨入りまでのこの期間、存分に戸外での遊びを楽しんでほしいと思います。

さて、今年度も「みなみかぜ」(瀬田南幼稚園だより)を通して、幼稚園での子ども達の生活の様子を紹介していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

令和５年度 瀬田南幼稚園の教育目標について

目指す子ども像（教育目標）

み　自ら考え、行動する子ども
な　なんでもさいごまでやってみようとする子ども
み　みんなのふるさとを大切にする子ども
っ　伝え合い認め合える子ども
こ　こころ豊かに感じる子ども

そして、目指す子ども像に向かうために、特に、下記の４つの心と力を育てていきたいと考えています。今年度は、特に「自尊感情」の育ちに向けて、友達をはじめとした人との「つながり感」、そして、保護者の方、教師を含む身近な人からの「愛され感」を子ども達が実感できるようにしていきたいと考えています。また、「愛され感」の醸成やそれに必要な大人の関わりについて、情報発信をしていきたいと考えています。

１．**意欲**：いろいろなことに興味を持ち、自分から積極的にかかわり、最後まで取り組もうとする心

２．**思いやり・共感性**：友だち（人）と共に過ごす喜びを実感し、相手と考えや気持ちを共有しようとする心。幼児期には、まず、思いやりの土台となる「共感性」を育んでいきたいと思います。

３．**自尊感情**：あるがままの自分を受け入れ、まるごとそのままに認める心。自分の長所も短所も含めて、「自分はこれでいい」と思える気持ちで、いわゆる「オンリー・ワン」の感情です。失敗したり、自信を失ったりしたときに支えてくれる感情です。

４．**体力**：心の豊かさ・たくましさを支える健康な体。健康な体がないと、意欲も自尊感情も低下してしまいます。

これらのことを基本理念としながら、子どもたち一人ひとりの気持ちに寄り添い、誠実に、丁寧にかかわっていきたいと思いますし、保護者の皆さんともお子さんの成長に向けてしっかりと話し合っていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

先生を『心のよりどころ』として

先生、ごちそうどうぞ！！

お天気のよい日には、３歳児さくら組の子ども達は砂場でお皿やカップに砂を入れてごちそうに見立てたり、水たまりの泥の感触を味わったりしています。子ども達は自分なりの遊びを楽しんでいるのですが、どの子も自分がしたことをまずは先生に見てほしいようで、お皿に砂や泥を盛り付けて先生のところへ持っていきます。先生は「ありがとう～！」「おいしいー！！」と子ども達の見立てを受け止めながら笑顔で言葉をかけ、食べるふりをしたりしています。子ども達にとっては、それがとてもうれしくて、もっと遊びたいという気持ちにもつながっているようです。先生から少し離れたところで遊んでいる子ども達も先生に食べてもらおうとせっせと運び、先生が食べ終わると次のごちそうを作って運んでいくのでした。
そのような様子を見ていると、３歳児の子ども達にとって先生の存在は大きな『心のよりどころ』となっているんだなと改めて感じました。そして、そのような関係性が、子ども達の安心感につながり、これからの生活を広げていく土台になっていくのだと考えています。

子どもなりの発想や感性を大切にしながら

チョウチンアンコウを焼こう！

チョウチンアンコウ

雨降りのある日、室内に作った一本橋やトンネルなどのコースで４歳児ぱんだ組の子ども達が遊んでいました。橋の下に敷いている青いマットを海に見立てているようで、マットを指さしながら「チョウチンアンコウに食べられたらあかんねん」と教えてくれました。そんな子ども達の発想を受け、先生が紙にアンコウの絵をかいて、マットの上に置きました。先生としては、アンコウの絵があることで「落ちないように橋を渡ろう！」と子ども達がはりきることを期待していたのかと思うのですが、そうはならず、ある子がアンコウの絵をお家ごっこに持っていって、網で焼いてお料理を始めてしまいました。しばらくして、先生がもう一匹アンコウをかいてマットの上に置くと、それも網で焼き始めます。
アンコウをかいた先生の意図通りの遊び方ではありませんでしたが、子どもなりの発想でまた違った遊びに生かされていったのでした。２匹目のアンコウの色が濃い茶色だったことから、「あ、アンコウが焼けてきた！」と言っている子どももいて、その感性の豊かさを微笑ましく感じたのでした。
ほんのちょっとしたエピソードですが、こういった子ども達の発想や感性を大切にできる幼稚園でありたいなと思いました。

なりたい自分になる

砂場で５歳児そら組の子ども達が山を作ったり、ごちそうやケーキを作ったりしていると、そんな様子が気になる３歳児さくら組の子どもがやってきました。さくら組の子どもにとっては、そら組さんのしていることがとても魅力的なようです。
ある時、そら組のＡちゃんが砂で作ったケーキをテーブルに置いていると、さくら組のＢちゃんが触って形が崩れてしまいました。

砂のごちそうができてきたよ！

Ａちゃん：「あ、それＡが作ったやつやのに…」（困った顔）
私：「Ｂちゃん、そら組のお姉ちゃんが作ったケーキなんだって」
Ｂちゃん：よくわかっていない様子。
私：「触ってみたくなっちゃったんやね」
Ａちゃん：「まぁ、いいで。」
私：「いいの？」
Ａちゃん：「うん、食べたことにするし」（笑顔）

ぱんだ組の頃なら怒っていたかもしれないＡちゃんでしたが、幼稚園に入ったばかりのさくら組さんが相手ということで、許してくれたのだろうなと思います。これは、Ａちゃん自身がさくら組やぱんだ組の頃に、そら組さんに優しくしてもらった経験から、『年下に優しくできるそら組になりたい』という思いを膨らませてきたからなのかもしれません。
幼稚園生活の中で、一人一人の子ども達が『こんな自分になりたいな』と感じられる出会いと経験を重ねていけるようにしたいと思います。